

# What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.18 June 2009

## 第2回研究会・先端機構研究部門別発表会と合同開催;新企画 6月27日(土)

今年度の新企画として、当会の第2回研究会、および関西大学先端科学技術推進機構研究部門別発表会(第8回)の合同で開催しました。

石川 正司機構長をはじめ振興会会員、一般企業、教員および学生など約100名が出席して川村義肢株式会社(大阪・大東市)で14:00から開催しました。大部分の参加者は、大学から2台の大型バスに分乗して参加となりました。

### 1. 振興会第2回研究会(会社見学会)

#### 川村義肢株式会社工場および

#### 「暮らしいきいき館ショールーム」見学

川村義肢(株)は、義肢装具製作適合をはじめとする支援工学のトータルサービスを提供されています。エンドユーザーだけをターゲットとしているサービスだけでなく「関わる人」に配慮した開発を進めるべきであると考え、ハードの開発に留まらずソフトの開発も重要であり「打てば響く」の対応だけでなく「打たれる前に響く」企業体質(企業風土)を目指し、日夜研鑽に努められています。

見学は、川村 慶 代表取締役ほか2名の社員の案内で3班に分かれて行いました。工場では、義肢装具の個別対応のものづくりの現場を見学しました。また、「暮らしいきいき館ショールーム」では、「利用者のため」ではなく「利用者の立場になって」開発された自立支援用具・設備を見学しました。ホスピタリティの心を行動というかたちで実現しようとする思いが伝わる見学となりました。



### 2. 関西大学先端科学技術推進機構研究部門別発表会(第8回)

#### 生命・人間・ロボティクス(B)研究部門

#### 「リハビリテーション工学研究会」発足記念

##### 1) 講演「リハビリテーション工学研究会」の目指すもの

研究代表者

関西大学システム理工学部 准教授 倉田 純一氏

リハビリテーション工学では、個々の障害に併せて生活を支援する解決策を個別に見出す必要があります。しかし、生活支援機器を必要としている人々にとって、工学や工業はこのような意味での「やさしいものづくり」を目指してきたとは言えず、機械的に高性能・多機能な製品が技術の進歩とともに社会に送り出しています。そこで個々の利用者のわがままに似た要求に満足し、何ら我慢を強いることなく利用者の使いやすいように使える「一品物」の生活支援機器を有効に提供する仕組みの構築を目指し、医療福祉の現場やものづくりの現場との連携の下に、これまで乖離してきたリハビリテーション工学との距離を短縮し、工学的に積極的な寄与を実現することを目指しています。



##### 2) 本音トーク「医工産連携というものの・・・」

川村義肢(株) 代表取締役 川村 慶氏

技師 松田 靖史氏

大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション医学講座

講師 田中 一成氏

関西大学システム理工学部

教授 内山 寛信氏

准教授 倉田 純一氏



本音トークは、倉田 純一 准教授の司会で上記の4人と会場から池田 勝彦教授(化学生命工学部)が参加して熱心な議論の場となりました。個々の利用者のわがままに似た要求に満足し、何ら我慢を強いることなく利用者の使いやすいように使える「一品物」の生活支援機器が議論の緒となり、リハビリテーション工学のあり方に展開しました。

医学側からは、リハビリテーションは、単に機能訓練だけを指すのではなく、代償的または環境改善的な手段を含むチーム医療の実践であり、リハビリテーション工学としては、生命支援技術、生活支援技術、社会活動支援技術、などがあげられます。障害各相に対してリハビリテーションアプローチすなわち治療的、代償的、環境改善的なアプローチを考えることが重要です。

ものづくり側からは、リハビリテーションは、社会復帰でなく社会参加により全人間的復権を果たす必要があります。これらを実現するためのチームアプローチの中心には必ず利用者がおり、その周りを違う立場、違う視点の専門家たちが上下の関係なく取り囲んでいる。リハビリテーション工学は、これら専門家たちのコラボレーションには言語の統一と、限られたツールを駆使していかにコミュニケーションできるかということがポイントになります。

工学側は、講演で示した基本的な考え方に沿い工学と医療福祉分野の取り組みの違いを考え、医療機関・医療福祉機器メーカーとの技術交流でリハビリテーション工学における共有・分担・連携の仕組みの構築に取り組みます。

熱心な議論の展開から、リハビリテーション工学研究会は、利用者のわがままに勝手な要求すなわち利用者の願いに的確に応えるには医工産のそれぞれの領域がオーバーラップする所について、専門家の枠を超えて自由に議論し、人が尊厳を失うことなく生きていくためのものづくりについて相互に触発し合える創発の場として活動を進めることになりました。

リハビリテーションに対する関係者の認識にまだ距離が感じられます。今回のような本音トークでコミュニケーションを重ねてリハビリテーションに関心を持ち語り合うことが最も大切であることが確認されました。

**交流会** 川村義肢(株)ホールでの「本音トーク」の終了後、同社食堂に場所を移し参加者全員での交流会を持ち、見学・講演・本音トークでの話題に時間は瞬く間に過ぎ、交流を深めることができました。

最後になりましたが、川村義肢(株)様には暖かく迎えて戴き、感謝しております。



左から、川村 慶氏、松田靖史氏、田中一成氏、内山寛信氏

## 化 学 生 命 工 学 部 ・ 石 川 正 司 教 授 の 研 究 が 「 代 表 的 成 果 3 9 事 例 」 に 選 ば れ ま し た

先端科学技術推進機構長の石川正司先生の「未来型蓄電デバイスの創成」に関する研究が、「政府投資が生み出した成果の調査」報告書で「代表的成果39事例」に選ばれました。

この報告書は、文部科学省科学技術政策研究所が、最近の科学技術の成果が進展し、社会貢献する過程において、政府がどのような支援を行ったかを広く情報発信することを目的として実施した「政府投資が生み出した成果の調査」プロジェクトをまとめたものです。

そのうち、「代表的事例39事例」は、政府の支援を受けた国公立大学、公的研究機関318機関に最近(主に2001年以降)の研究成果の内容や実現時期、メディアの取り上げや表彰の実績、支持プロジェクトや資金についてアンケート調査を行った結果、189機関から集まった1,052件の成果の中で、研究成果の重要性が分かりやすいもの、メディアやトップジャーナルなど第三者によって大きく取り上げられたり、表彰実績があるもの、今後の大きな発展性が期待できるものなどの観点から選ばれたものです。

振興会のホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>  
関西大学 HP からサイト内検索で「振興会」を入力して下さい

ASCIKU 関西大学科学技術振興会

Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University